

維新政治の深刻な行き詰まりは教育分野でも顕著に表れています。日本共産党大阪府委員会の小林裕和文教委員会責任者のリポートです。

揺れる

維新政治



子育て・教育・学校について語り合った「教育フォーラム」=2013年11月9日、枚方市

党大阪府委 文教委員会責任者 小林裕和さんリポート

大阪では、安倍政権の補完勢力・突撃隊としての橋下「維新の会」が政治権力が教育に介入する教育関係条例(2012年3月7月)や「国旗・国歌」強制条例(11年6月)を強行成立させ、大阪市での全国いっせい学力テスト学校別結果公表の強制、公立高校の学区制撤廃、府立学校卒業式・入学式「君が代」斉唱時の口元チェックなど、競争主義教育と「愛国心」教育を強権的に教育に介入して進めています。

教育破壊の暴走

府民の共同でストップ

府立高校長在任中の(昨年9月)で日本共産党が自主的に支援した現職の竹山修身氏が、岸和田市長選(同11月)でも同じく自主支援した新人の信貴芳則氏が勝利し、「維新」が痛い敗北を喫したことがあります。

5%前後

橋下市長が公約した全国いっせい学力テストの学校別結果公表と

少人数学級実現、学力テストの学校別公表反対、教育に穴があく問題の緊急な是正、教職員の定数増、民間校長の大幅導入反対などでメールを交換したと語っています。

10年後退

ある教育関係者は、

ここに、教科書検定基準の改悪や道徳の教科化、教育委員会制度の改悪など、安倍政権が改悪教育基本法の具体化として進めようとしていること、先取りがみられます。

「維新」が強行した教育関係条例で「原則公募」とされた大阪市立小中学校の公募校長(民間人校長)については、昨年9月に11人中6人の不祥事が明るみに出て、保護者・市民の批判が噴出するなか、14年度35人採用予定のところ、昨年末に辞退者が相次ぎ、13人に激減しました。

日本共産党府委員会は、橋下「維新」の暴走と対決し、教育関係条例の具体化を許さないたたかいを進め、教育改革提言をはじめ大改組、高校教科書、公募校長、「体罰」問題で一連の提言を発表。憲法と子どもの権利条約に立脚した対案を示し、教育懇談会を開くなど広範な府民・教育関係者との共同を広げています。